

平成23年度 学校評価表 (中間 ・ 最終)

学校名 三原市立深小学校

a 学校教育目標	自ら学び、感性豊かな笑顔いっぱいの子どもを育成する。	b 学校経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) ふるさとを愛し、活力に満ちた、明るく美しい学校の創造 【ビジョン】(自校の将来像) 地域に根ざした教育活動を展開する学校
----------	----------------------------	------------------------	--------------------------------------------------------------------------------

	評価計画					自己評価				改善方針	I 学校関係者評価					
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月 h 達成度	2月 h 達成度	i 達成度	j 評価		k 結果と課題の分析	改善方針	イ	ロ	ハ	コメント
学力の定着と感性の育成	指導法の工夫改善による教育の質の向上と豊かな感性の育成	基礎学力の定着と論理的思考力を育成する。◎	標準学力検査における全学年の通過率向上	通過率の向上(%)3p	100	100		100	A	5年生の基礎基本定着状況調査では、国語・算数ともに県および市の平均を上回った。標準学力検査に向け、学校として取り組む。	1・2学期の学習内容について手作りプリント等で復習を充実する。	4			・積極的に作品応募をして、第3者の評価を受けることは大切だと思う。 ・研修の内容がわからないのでなんともいえない。 ・繰り返しやるのが大切である。止まることなく継続してやっていただきたい。 ・先生方の研修が充実したものであることは左の評価より明らかだと思われるが、その内容や成果など、保護者にとって具体的にわかりにくい部分が多い。子ども達の学習にどのように反映されているのかをよりいただいた表現で説明していただけるとありがたい。	
			年間を通しての、計画的で効果的な校内研修の充実	担任アンケート肯定的評価90%	90	95		106	A	計画的に実施してきており、研究課題に迫る研修が現時点ではできている。担任によるアンケートでも実践的な研修であるとの評価である。	10月期までの反省を生かし、来年度につながる研修のあり方を構築していく。	3	1			
			個性を伸ばし、情操教育の推進を図る。	「書くこと」における表現力の育成	積極的な作品応募(%) 全学級1回以上	80	60		67	C	5・6年生は全員応募を行い、入賞等の結果も得ている。表現力定着の担任評価では70%以上の児童が設定した表現活動が出来ている。	1～4年生においても年度末まで作品応募の機会を捉え指導していく。	4			
				市民音楽祭への参加(%)	90	/	/	/	/	/	市民音楽祭参加に向け職員が意識統一して練習できており、表現力の向上が見える。	学習発表会を機会としてステップアップを図る。	3	1		
徳育と基礎体力の充実	心身ともに健康で、礼儀正しい子どもの育成	柔軟性・巧緻性・持久力を養い、基礎体力を培う。	年間走行距離数 低100 中120 高150達成率		100	100		100	A	持久走カードを配布し通年実施しており、各学年で目標を設定して取り組んでいる。	2月の持久走大会を目標にタイム設定などの工夫を行うことでより意欲的に取り組ませる。	4			・礼儀・挨拶は地域住民と接する機会を多く持つにより身につくと思う。 ・自ら進んでするという習慣ができたらいと思う。 ・身体で覚えることが大切である。知らず知らずのうちに体力も向上し、必要なときには声が出せる習慣が身につくようになると思う。	
			継続的な縄跳びの実施	検定3級の合格率(%)	80	/	/	/	/	2学期より体育の時間を中心に継続的に取り組みを始めている。	学年間の交流を行うなどより高度な跳び方に挑戦させていくための意識付けを行っていく。	3	1			
			幼小中の連携を図りながら、礼儀作法を身につけ、基本的な生活習慣の確立を図る。	気持ちのよい挨拶・返事・言葉遣いの励行	肯定的評価の向上(%)	90	70		78	C	児童の振り返りカードではBだが、行動観察では声の大きさや相手意識などに課題がある。	登校時や授業・学校行事などの機会により相手意識を持った返事・挨拶を意識させていく。	4			
			履物そろえの徹底・習慣化	肯定的評価の向上(%)	90	80		89	B	委員会の振り返りでは、普段からかなり意識した行動が取れている。しかし、全員の習慣化ができていないと言いたい。	指導を徹底するとともに定期的な評価を続けていく。	4				
信頼される学校の構築	学校と地域との双方関係の構築	地域人材を活用し、地域の文化・産業・伝統等を学ぶ。	地域とふれあう交流事業の実施と内容の充実	年間6回以上実施率(%)	100	100		100	A	社会科や生活科などの学習を通じて地域の方に協力をいただいている。	地域学習の機会をより計画的・積極的に持つとともに、職員が共有していく。	4			・子どもを育てるには、老若男女、いろいろな人とのふれあいが必要だと思うのでさらに積極的な交流をお願いしたい。 ・せっかく田畑がたくさんあるので、お米がどうやって育てていくのか実践してみてもどうか。 ・還流学習の実施はその都度実施する方が望ましいと思う。習った事柄が時と共に薄れていくので、年何回ではなくてもよいのではないかな。	
			地域の施設との交流学習の充実	年間2回以上交流のべ実施率(回)	100	50		50	B	サンライズ大池やピッコロを訪問し交流することができた。	11月にも交流を計画しており達成できる見通しだが、交流内容について反省に基づきより充実させていく。	4				
			教職員の経営参画意識を高め、情報発信を積極的に行なう。	積極的な情報発信	月1回以上HP更新率の回数(回)	75	100		133	A	HPIについての研修を行い、月1回以上の更新ができています。	学年や項目により更新の回数に差があるので新しいものを掲載する努力を続けていく。	3	1		
				還流学習の実施	年間12回実施率数(回)	100	67		67	C	研修機会は多いが多忙なこともありなかなか実施できていない。主だった研修について学習機会を計画化していきたい。	新たに報告書を作るのではなく研修資料をコピーするなどして簡略化していきたい。	4			

◎本年度の重点目標については◎印で示す。

【j:自己評価】

- A: 100 ≤ (目標達成)
- B: 80 ≤ (ほぼ達成) < 100
- C: 60 ≤ (もう少し) < 80
- D: (できていない) < 60

【I:学校関係者評価】

- イ: 自己評価は適正である。
- ロ: わからない。
- ハ: 自己評価は適正でない。